



クローズアップ

天下人 三好長慶と芥川山城

みよしながよし



三好長慶像(重要文化財・大徳寺 聚光院蔵)



芥川山城跡(航空全景)
※写真は北側から南を向いて撮影したもの

主郭(本丸)



大手石垣 城への正門である「大手」に築かれた高さ2m以上の石垣。この石垣には登城者に城主の力を見せる役割がある



堀切 外敵からの侵入を防ぐために山を削った堀切。芥川山城跡は要所に堀切を設けている



芥川山城跡から見た風景

※芥川山城跡のある三好山は私有地です。トイレはありません。また、足場が悪く危険な場所もあります

芥川が取り巻く天然の城塞 戦国を代表する山城

戦国時代の城郭には、高い石垣や水堀、天守などはまだなく、敵の侵入を防ぐ堀切や土塁によって守りを固めていました。長慶が居城としていた芥川山城には、本丸や二の丸があった曲輪(くるわ)といわれる広場の跡や、堀切などが現在も良く残っており、日本城郭協会の「続日本100名城」に選定されています。

芥川山城は摂津峡東側に位置する三好山の全体を使った巨大な山城で、規模はおよそ東西500m、南北400mに及びました。地形の高低差を生かし、山裾は芥川が取り巻く天然の城塞となりました。

また、城跡からは天下人の居城にふさわしい雄大な景色を見渡すことができます(左写真)、戦国時代を代表する名城であったことが実感できます。

三好長慶——。

戦国時代、摂津峡を見おろすように立つ三好山に存在した「芥川山城」で、織田信長に先駆けて天下人となった人物です。

天下人と聞くと、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康を思い浮かべる人が多いですが、室町・戦国時代の「天下」とは、京都とその周辺地域のこととされ、この天下を束ねる実力者が「天下人」でした。三好長慶は、織田信長が天下に号令するおよそ20年前に畿内をおさめ、天下人となった人物です。

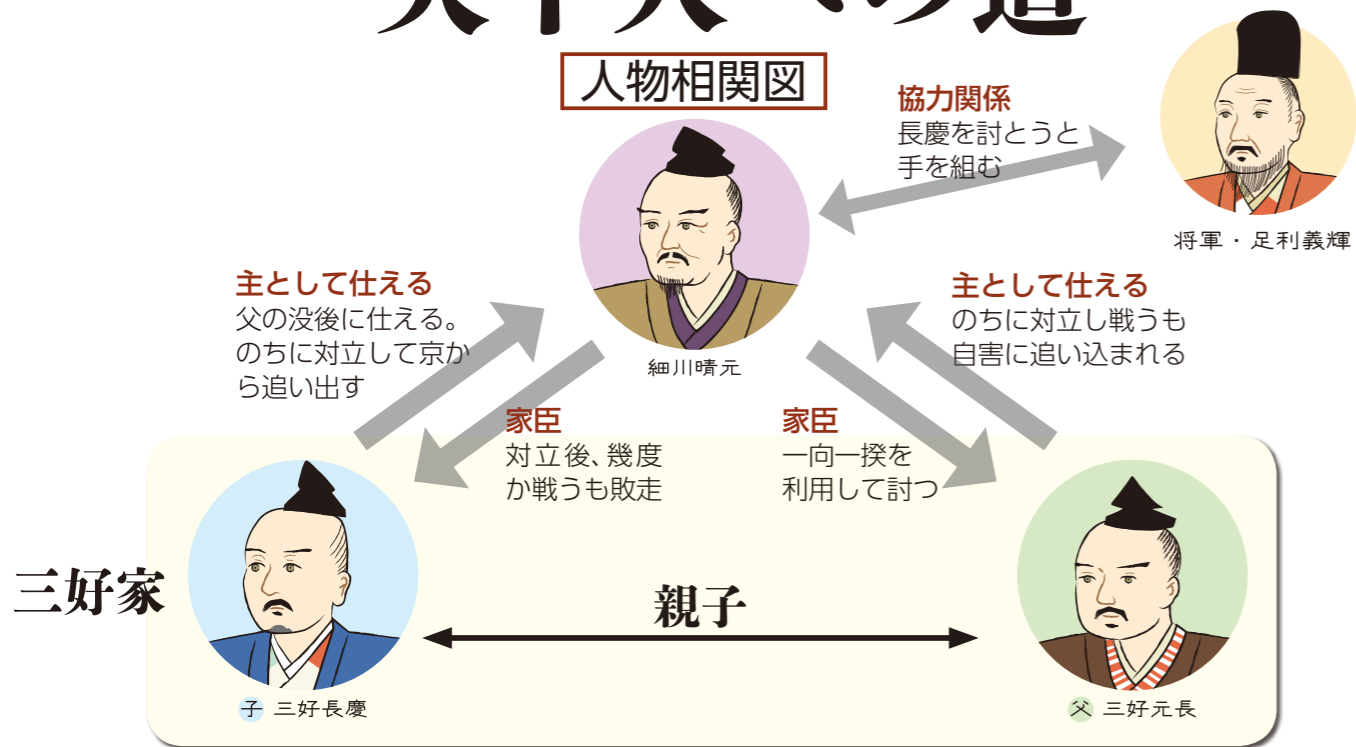
三好長慶が天下人として芥川山城を居城としていたことで、現在の高槻市は戦国時代、天下を治める上で重要な拠点となりました。本市では、この城跡を国史跡に指定するため、取り組みを始めています。

今号では、戦国時代に高槻で活躍した天下人・三好長慶と芥川山城の魅力に迫ります。

問合せ 文化財課
☎674・7652

三好長慶 天下人への道

人物関係図



父の仇である主君を討ち天下人に

三好長慶は大永2(1552)年に阿波国(現在の徳島県)で生まれました。三好氏の本拠地は阿波でしたが、戦国時代がはじまると、室町幕府の管領(将軍補佐や高槻が所在する摂津国の守護(指揮官))という要職につく

細川氏の下で働くようになりました。しかし、主君・細川晴元は長慶の父・三好元長を脅威に感じたのか、天文元(1532)年に一向一揆を利用して元長を堺で切腹に追い込みます。その後、父の死の原因となっ

た一向一揆と晴元が対立すると、長慶は12歳という若さで両者の和睦を仲介します。そして、まだ若かった長慶は、父の仇であることが分かっていながらも、一族を守るため、一時的に晴元に仕え始めるのです。

長慶は、晴元に仕えながらも、摂津の武士たちを味方にするなど力を蓄えていき、やがて晴元と対立します。天文18(1549)年にはついに晴元の軍勢に勝利し、晴元の味方である将軍・足利義輝をも京から追い出して、三好長慶は天下人となりました。そして4年後に芥川山城を居城とします。その後も戦いは続き、最盛期では13もの国に影響を持っていた長慶

でしたが、敵対するものに勝利してもむやみに命をとらず、情に厚い人柄だったと評価されています。長慶の没後は養子の三好義継が跡を継ぎますが一族が分裂し、芥川山城は永禄11(1568)年、織田信長に攻め入られます。これにより三好氏の天下は幕を閉じますが、この間芥川山城は天下人活躍の舞台として重要な役割を果たしたのです。

父を自害に追い込んだ主君に12歳の若さではえる



織田信長や世界も一目置く三好一族

芥川山城は天下変わり目の地

永禄11(1568)年、衰退する室町幕府を再興すべく、織田信長と足利義昭は京都を目指します。軍を進める2人は清水寺や東寺に陣を置きますが、京の町(洛中)には入らず、三好氏らが籠った芥川山城に攻め入りました。

畿内を治めていた三好氏という脅威を取り払い、天下の拠点の一つであった芥川山城を奪取しなければ、上洛(洛中に入る)をしても安心できないためです。

芥川山城を攻略した信長たちは、新たに天下を支配するための武将の配置を芥川山城で発表しています。



18世紀はじめにオランダで発行された、シャトラン著「歴史地図帳」挿図「日本の統治者の変遷」(大阪城天守閣蔵)

天下人であった三好氏の居城で発表することで、信長は自分を新たな「天下人」として宣言したかったのかもしれない。この後、信長は上洛しました。

世界にも名を残す天下人

戦国時代には、キリスト教の宣教師が渡来し、ヨーロッパへ日本の情報を伝えていました。

18世紀のオランダで発行された日本の「歴史地図帳」には、統治者として天皇、足利将軍に続き、三好殿(左写真)と書かれており、追って信長、秀吉、家康たちの名前が刻まれています。この資料から、長慶は世界にも知られた天下人だったといえます。